

第24番 最御崎寺

●高知県室戸市室戸岬町4058-1
☎0887-23-0024
●宿坊／あり(要予約)



第25番 津照寺

●高知県室戸市室津2652
☎0887-23-0025
●宿坊／なし



沿線の見どころ



乱礁遊歩道

室戸青年大師像付近から海岸まで設けられた遊歩道。岩の間を縫うように設けられた全長約2.6kmの道のりには、弘法大師ゆかりの行水の池、悲しい伝説があるピシャゴ岩、子授の岩、エボシ岩などの巨岩が点在する。すべてを回ると約1時間かかるが、出入り口が各所にあるので予定にあわせてルートを決めて楽しめる。

所 高知県室戸市室戸岬町
☎ 0887-22-5161
(室戸市観光ジオパーク推進課)



沿線の見どころ



海の駅とろむ

室戸岬に近い漁港内にある海の駅。とれたての鮮魚を提供する食事処「ちばうま八」のほか、目の前の海で朝とれたばかりの魚介、干物や産地直送の野菜、室戸海洋深層水関連の商品を数多く取り扱う市場「くじらはま」がある。わら焼きタタキ体験のほか、イルカとふれあえる室戸ドルフィンセンターも隣接している。

所 高知県室戸市室戸岬町6810-152
☎ 0887-22-2176
●売店 9:00～17:00、
レストラン 11:00～16:00(ラストオーダー)
●水曜(祝日の場合は営業)



境内の見どころ



鐘石

境内のほぼ中央に置かれたこの石は、叩くと鐘のような高い音がするのために鐘石といわれる。この音は極楽浄土まで届くとされ、弘法大師の七不思議に数えられている。鐘石の上に、それを叩くための小石が置かれているが、長年多くの人々が叩いたせいか、その部分がくぼんでしまっているのが印象的だ。



亜熱帯植物に囲まれた重厚な本堂

第24番

室戸山 最御崎寺

むろとざん みょうじょういん ほつみさきじ

厳しい修行の道場の始まりの寺

歴史・全体像

青年だった弘法大師が、悟りを開いた場所とされる室戸岬。その岬の頂上にある最御崎寺は、26番金剛頂寺の通称「西寺」に対して「東寺」と呼ばれている。大同2年(807)、唐から帰朝した弘法大師は、再びこの地を訪れ、嵯峨天皇の勅願を受けて伽藍を建立する。その後も歴代の天皇から篤い信仰を受け、足利尊氏はここを土佐の安国寺として利生塔を置いた。

近世初期には落雷火災に遭い、堂宇を消失したが、元和年間(1615～1624)に土佐藩主・山内忠義の援助で僧・最勝が再興させた。明治の神仏分離令により堂宇は再び荒廃するが、大正時代に入り再興した。

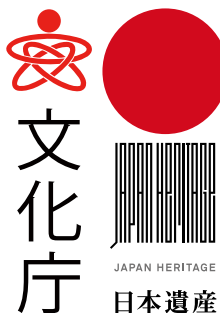
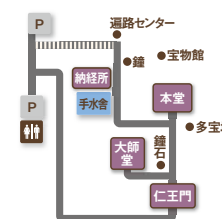
境内

ゆるやかな上り坂の参道を抜けると、亜熱帯植物の林に囲まれた仁王門にたどり着く。境内に入ると、左手に土俵、右手には十一面観音菩薩像がある。菩薩像の後ろに広がる森は、国内でも珍しいシイの木に寄生するヤッコソウの群落地となっている。仁王門をくぐり境内を奥に進むと、左手に大師堂、右手前には慶安元年(1648)に竣工した鐘楼堂がある。空海の七不思議に数えられる鐘石は、境内のほぼ中央に鎮座する。本堂の裏には遍路センターがあり、それを過ぎると急な下り坂となっていて、途中には小さなお地蔵さんが並ぶ「一言お願い地蔵」がある。

御詠歌／明星の出でぬる方の東寺暗き迷いはなとかあらまじ
本尊／虚空蔵菩薩
真言／のうぼう あきやしゃきやらばや おん ありきやまり ぼり そわか
宗派／真言宗豊山派
開基／弘法大師



大師堂の前には土俵が残されている



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



